

ひたち生き生き百年塾	セカンドライフを豊に生きる	見る・聞く	発行元	熟年研究会
	生き生き J-net	さがす	事務局	生涯学習課
		夢がある	百年塾サロン	
			☎ 0294-23-9165	
			Fax 0294-24-5200	

「日立大好き」になろう

代表世話人 掛札 優

生涯学習など始めて約4年、意外なことに気がついた。それは日立に住みながら「日立の良さを知らない人」「知ろうとしない人」が多く、「良く言う人」は少ないことである。

私も、会社人間の時は無関心派であり、このことを批判する気は全くない。然し、自分の住む「日立好き」で生きた方がよいのではないだろうか。

本日に日立は良くない町なのか？ 他県の人から見ると「返子と日立の海岸と何が違うのか」筑波大助教授「日立は自然災害が無く過ごし易い九州出身者」「水平線より昇る太陽・山並みに沈む太陽は素晴らしい相模原出身ご夫妻」「この自然の素晴らしさを大事にしない日立の人は贅沢だねうあさかわ山荘にて中目黒の女性」など評価は高い。桜と神峰公園だけの日立ではないのである。

なぜこの様な感覚のずれがあるのだろうか？ 水戸学の流れではないか？と思う。茨城人は「褒められる・褒める」ことは「軟弱な人のすることである」と言う思想がある様である。

茨城県に来て驚いた事がある。褒めると話題は直ぐ尽きるが、悪口を言うのを徹してでも話しは尽きない。前述の筑波大助教授の意見。

このことは「良いこと・良いところ」を感じたひとがいても、素直に「褒める」ことをしない為に「良いこと・良いところ」が表に出てこないのである。

我々も「日立再発見」で御岩神社・泉ヶ森神社・諏訪神社などで説明を受けて、その価値を初めて知った人が少なくない。この事を努力不足であるとは言えない。知らせる仕組みができていないからである。

この茨城県人気質は「成程、気がつかなかったが同感」である。「良いこと・良いところ」は、素直に感動・感激・感謝して「褒める」ことは、「生き生きとお役に立って楽しく生きる」ことの基本と思う。

J-netの皆さんの力をあわせて「日立大好きになろう」に挑戦してみませんか。

新たな挑戦

神長 晃

今年の四月から私は、地元大沼町明和会（老人クラブ）の会長をしています。勿論自分から望んだわけではない。

お陰で百年塾はすっかりご無沙汰しております。

広報部、J-net、南部ネットワークの方々には誠に申し訳なく思っている次第です。

考えてみると、退職後十年は県の生涯学習で、続いて市の百年塾で、そして地元老人会と、これは当然の成り行きかも知れませんが。

私は九月で満七十四歳になりました。でもまだワープロでは飽き足らず、十月からパソコンにとり組んでいます。もう少し物事に挑戦して生きて行きたいと思っています。

民生委員と明和会会長を両立させながら。



畑山和子

木版画



ありがとう
胸にほっかり
小さなあわせ



安達太良山へ

田岡 静子

「ほんとうの空」を群れとぶ蜻蛉かな
安達太良の智恵子の空や秋深む
尾根ひろし硫黄の風にあきつ舞ふ
りんどうや智恵子の空の色のまま
秋の夜のくろがね小屋の青春歌
ハモニカと歌声そとは虫の闇
遭難のしるべ離れず秋の蝶

九月十九・二十日と小池さん達に安達太良へ連れて行って頂きました。
天候に恵まれて、大そう楽しいハイキングでした。私はカメラを持って行きませんでしたので、シャッターを切るかわりに駄句をつぶやいてきました。